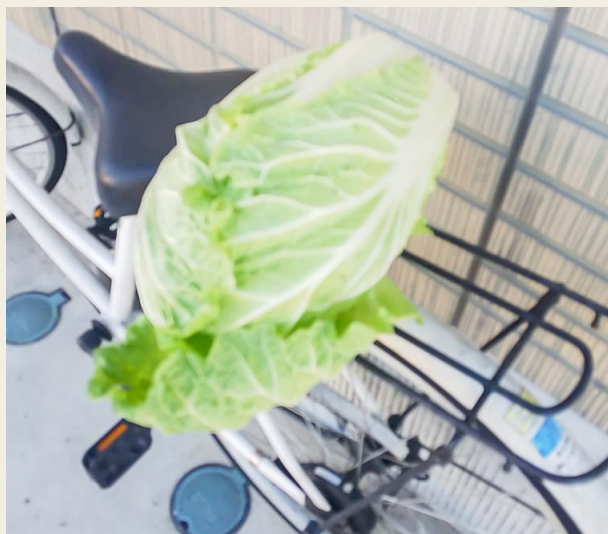


Action

おじいちゃんにありがとうを言ってみた！



Why なぜ？

いつもそっと野菜をくれる近所のおじいちゃん。
感謝の気持ちを伝えようと話しかけてみたら……。

Process

いつ、どこで、 どうやって？

12月20日（金）の仕事が終わった後に、おじいちゃんの家を訪ねて声をかけてみました。

Who だれと？

大学を卒業して働き始めたばかりの私と、近所のおじいちゃんと。

Report どうだった？

仕事から帰ると、そっと自転車のサドルに置いてある野菜たち。いつも作り過ぎた野菜をおすそ分けしてくれる近所のおじいちゃんに、直接お礼を言ってみようと思ってみました。「おいしくいただいています」とあいさつすると、「食べてくれとるん。ありがとう!」と逆に感謝され、ここから世間話へ。「野菜は近所の人にもあげよるんよ」「仕事はどうや〜?」「最近、近所の人（70歳）が亡くなってねえ」「去年の夏に、わしゃ倒れたんじゃ!」など、おじいちゃん家の玄関先でいろいろなお話ができました。

会話から高齢者の一人暮らしの実状を知ることができたり、作り過ぎた野菜が「人とつながるためのツール」になることなど、とても考えさせられました。これからは定期的に声をかけてみようと思います。

おじいちゃん、ありがとう!



野菜のおすそ分けという文化は、日本に古くからある近隣交流の習わしですね。でも、この取り組みの本質は、ひとり暮らし高齢者と若い世代の住民との新たな交流のカたちなのです。おすそ分けをきっかけに、自然と会話が生まれる。会話の中に近況報告が入る。従来の地縁組織の衰退の危機が叫ばれる一方で、やはり私たちは人々の関わりを求めているのです。それは、こんな何気ない関わり方が活況になっていくのかもしれないですね。